

まちの話題

仕事の大変さと喜びを実感

5月2日、潮見の国道418号脇の「グループしおなみの山の直売所」で、八百津東部中学校の女子生徒6名が、早朝に自分たちで収穫したワラビを販売しました。

これは、八百津町青少年育成町民会議潮南支部（支部長 柘植勝一さん）が、子どもたちがワラビの採取から販売まで体験することで、自然（山）の恵みに感謝すること、働くことの喜び、人とのふれあい、そしてお金の大切さを実感してもらおうということで計画しました。

生徒らは、朝約1時間半かけて本郷地区の山でワラビを収穫し、商品にするため、体裁を整えて店頭には並べ販売しました。

体験を終えた生徒らは、「ワラビを収穫するのは大変だったが、ワラビが売れてうれしかった」「お金の勘定が難しく働いている人はすごいと思った」と感想を話していました。



ワラビ販売を体験する生徒ら

八百津町体育協会主催「町民スポーツ大会」



東濃実業高校野球部監督 金子浩隆さんを
招き野球教室を開催

5月10日、八百津町体育協会主催の「町民スポーツ大会」が開かれ、野球やソフトバレー・剣道・サッカーなど6種目の競技に町民ら約500人が参加、気持ちの良い汗を流しました。

はじめに八百津小学校体育館では開会式が行われ、全国や県の大会で前年活躍した団体・個人に優秀選手表彰が佐藤悦男体育協会長から贈られました。

このあと各会場に分かれ、少年野球教室、ソフトバレー交流会、テニスチャレンジコーナー、町民ソフトボール交流会、ミニサッカー交流会、町民剣道稽古会のすべてで賑わい、白熱した熱戦が展開されるなどまさに暑い一日となりました。

学校茶園で茶摘み

5月12日、錦津小学校の敷地内にある茶畑で、全校児童が地元のお年寄りなど地域のボランティアのみなさんと一緒に茶摘みと茶もみの体験学習をしました。

今年取れた茶葉は約70キロあり、その内の約10kgは6年生の25名が「かまど」で火をおこし、茶葉に火を通した後、体育館内に広げたむしろの上で茶もみをしました。お年寄りに「手のひら全体でVの字にもむのがコツ」と教わりながらもみだすと、新茶の香りが館内いっぱいになり、初夏の雰囲気を感じていました。

できあがったお茶は、各児童宅へ持ち帰ったり、子ども110番の家や安全ボランティアのみなさんなどや、交流のある愛知県の篠島小学校へ贈ることにしています。



茶摘みを体験する児童ら